

スーパーデイようさん三事例集

デイサービスに安定して通うための取り組み

スーパーデイようさんでは各認知症の特徴をいかに安定して通えるような取り組みを行っています。

①アルツハイマーらしさ〜病識欠如〜

アルツハイマー型認知症の特徴的な症状に「病識欠如」というものがあります。認知症の症状があるのにもかかわらず、私は大丈夫、困ることは何もない。物忘れも年のせい。このように思っているのが特徴です。このようなケースには、デイサービスの必要性を説明しても難しいことが多いです。スーパーデイようさんでは、過去の職歴から働きに来てもらう、趣味からスーパーデイようさんに慰問に来てもらうなどの役割作りがとても重要だと考えております。また、信頼を置けるお子さんや主治医からデイサービスを勧めてもらう（ことにする）ことも効果的なことが多いです。私は困ることはないけれど、勧められているから仕方ないな・・・自分の気持ちに折り合いをつけ、このように思ってもえれば、安定してデイサービスに通えることが多いです。

②レビー小体型認知症らしさ〜日中傾眠傾向 夜間不穏〜

レビー小体型認知症の特徴的な症状に「日中傾眠傾向」／「夜間不穏」というものがあります。デイサービスは一般的に9時〜16時くらいの時間帯での利用ですが、日中傾眠傾向である為、うまくお誘い出来ないことが多いです。スーパーデイようさんでは、このようなケースには家族やケアマネージャーから生活リズムをお聞きし、一般的なデイサービスの提供時間にとらわれず、比較的起きている時間帯でデイサービスを勧めたり、体験利用をしてもらうことが重要だと考えています。レビー小体型認知症の方は夜間大声で叫んだりと介護者が大変な苦勞をしていることがあります。スーパーデイようさんを定期的に利用することで、生活リズムができ、日中の傾眠、夜間の不穏が改善し、介護負担が大きく軽減する事例を多く経験します。

③前頭側頭葉変性症しさ〜タイムスケジューリング的な生活立ち去り行為〜

前頭側頭葉変性症の特徴的な症状にタイムスケジューリング的な生活があります。生活リズムを追ってみると、驚くほどに毎日同じ時間に同じ事を行っていることが多いです。このようなケースは、日中の時間帯に毎日行っていることをスーパーデイようさんの内で置き換え、自宅とスーパーデイで同じことを行うことが重要だと考えております。例えば毎日10時に散歩をする・・・といった具合です。また、前頭側頭葉変性症の方は毎日の生活をルーティン化することで生活が安定します。前頭側頭葉変性症の方の利用回数ですが、慣れるまで週1回といった選択でなく、慣れるために毎日のように通いスーパーデイようさんを日課にするといった選択が適しています。また、前頭側頭葉変性症の特徴的な症状に立ち去り行為があり、提供時間を過ぎしきれないことがあります。こういったケースは提供時間にとらわれず、スーパーデイようさんが日課になるまで柔軟に対応すること重要だと考えています。

④全認知症共通〜感情の記憶は残る〜

認知症の方も私たちの社会生活と変わらず、自分に好意を持つ方の話は聞いてくれ、苦手な方の話は聞いてくれません。通所することには難色を示す方には、スーパーデイようさんには通わなくていいですよ。ただ、あなたの事が心配なので、時々お茶を飲みに来ていいですか？といったスタンスで、何度もご自宅を訪問し、コミュニケーションを密にし人間関係を構築します。心を開いてくれるまで時間がかかりますが、人間関係が構築できれば、スーパーデイようさんを安定して利用できるケースが多いです。利用開始当初は、提供時間は本人の意思を尊重し、自由でわがままがきく場所だ、私の言うことを聞いてくれるスタッフだ。と印象に残るような支援が重要だと考えています。